

ボランティア活動時の感染症予防のために

〈訪問／声かけ〉

災害VCへ相談がある世帯だけでなく、相談がない世帯にも支援を要する場合があります。遠くに新型コロナウイルス対策で分散避難が呼びかけられているため、支援の必要な方が見えにくくなっています。訪問や声かけにより潜在的ニーズを見つけるだけでなく、相談できる窓口があることを周知して支え合いの輪から漏れる被災者を無くすことが大変重要です。

リスク分類	ボランティアと地域住民の接触	地元住民同士の接触	ボランティア同士の接触	ハイリスク者の関与	リスク評価
訪問／声かけ	高	低	中	高	高

〈活動に入る前〉

○ 健康状態を確認する

- 自分の健康状態を毎日確認しましょう。体調に不安がある場合は訪問／声かけ活動を中止または延期しましょう。
- 可能な場合は、訪問前に対象者の健康状態も確認しましょう。体調の不安を訴えた場合は必要に応じて医療機関を受診するよう促しましょう。

(参考) 新型コロナウイルス感染症の主な症状

- ・ 37.5 度以上の発熱
- ・ 息苦しさ
- ・ 強い倦怠感
- ・ 継続的な咳
- ・ 継続的なのどの痛み
- ・ 味覚/臭覚の異常
- ・ 下痢 など

※新型コロナウイルス感染症以外に、ノロウイルスなど他の感染症の疑いがある場合も活動を休みましょう

○ 訪問以外の連絡／声かけ方法も検討する

- 手紙や電話、SNS (LINE 等) 等、訪問によらない方法も検討しましょう

○ 面会方法について確認しておく

- ドアやインターホン等の手指が触れる場所、面会する場所を確認しましょう
 - ・ 相手との距離は確保できるか？
 - ・ 換気されているか？
- 部屋への入室が必要ないなら避けましょう。玄関ドアや窓越し、縁側、屋外、

インターホン越し等の方法も検討しましょう

- 入室が必要な場合は、短時間（目標は15分以内＝濃厚接触にあたらない）で終わられるよう手順を事前に確認し、必要に応じて簡略化しましょう。
 - ・事前に記入できる項目は記入する
 - ・電話等で確認できる事はしておく
- 対象者には面会中にマスクの着用を求める等のルールをチラシ等で事前に周知するとともに、必要に応じて訪問時にも説明しましょう。

○ 準備物を確認する

- 活動の必携品
 - ・身分証
 - ・筆記具
 - ・携帯電話
 - ・チラシ等配付資料
- 感染予防対策品
 - ・不織布マスク（予備も持つ）
 - ・携帯用アルコール手指消毒液
(またはアルコールウェットティッシュ)

(以下は、必要に応じて)

 - ・ハンドソープ
 - ・ペーパータオル
 - ・非接触式検温器
 - ・手袋
 - ・ゴミ袋

<活動中>

○ 面会前の準備

- 携帯用アルコール手指消毒液で手を洗い、マスクを必ず付けましょう
(アルコールウェットティッシュを使う場合は隅々までゴシゴシこする)
- チラシ等の配付物やペンなど対象者に渡す／触るものは、手指消毒の後に準備し、必要以外のものは鞆にしまって出さないようにしましょう
- 対象者にも面会する前にマスク着用をお願いしましょう
(マスクが困難な方の場合は咳エチケットのためのペーパータオル等を持っておいてもらう)
- 対象者の体調を確認し、違和感がある場合は面会を中止または延期して、インターホン越しの会話などで代替しましょう

○ 面会時の対応

- 換気の良いところ（玄関や窓越し、縁側、屋外等）で面会しましょう
- 屋内に入る場合、換気を確保しましょう
（30分ごとに5分程度2方向の窓を開ける 1方向なら扇風機を併用する）
- 距離をとって面談しましょう（できるだけ2m 最低1m以上）
- 湯茶やお菓子などの接待は丁寧に辞退しましょう
- 継続的な訪問／見守りのため、また、万が一の連絡のために電話やSNSアカウント等を確認しておきましょう

○ 面会后

- あらためて手指消毒を行っておきましょう

<活動後>

○ 記録に残す

- 万が一の感染リスクに備え、1日の行動（いつ/どこに行った/誰に会った）を記録しておきましょう

○ 共有する

- 訪問した対象者のうちに気になる方がいた場合、団体の責任者と速やかに報告し、必要に応じて行政や地域包括支援センターなどの支援機関や専門職に相談しましょう